

Newsletter



附属学校ニュースレター

第15号・2012年 春

附属小学校長 就任のご挨拶

附属小学校長 森本恵子(生活環境学部教授)

この4月から、はからずも附属小学校長という大役をお引き受けすることになりました。4月は着任式に始まり、入学式、始業式、育友会、春の運動会といろいろな行事に出席させていただきました。大学とはまた違う世界がそこにはあり、自らの小学校生活を思い出し比較するのも面白く、見聞を広げながら勉強しております。小学校時代を振り返りますと、6年間という期間の長さなのか、成長期で感受性が強い年頃のせいなのか、長い人生の中で身体はもちろん心の変化に富んだ時代だったと思います。そのような児童に寄り添い、知性、感性、身体の成長を促す教育に携わる先生方の役割の重要性は申すまでもありません。

附属小学校の「奈良の学習法」が全国的にも有名ですが、平成21年度からこの3月までの3年間、文部科学省の「研究開発学校」の指定を受けて、附属小学校・附属幼稚園は



森本恵子校長先生と子どもたち

『幼小一貫教育において「読解と表現をくつなぐ論理的思考力」を育成する教育課程の研究開発』

のテーマで教育研究に取り組みました。その結果、大学や教育システム研究開発センターの応援のもと、熱心な活動が結実し、幼稚園の活動と小学校の学習との内容的な接続が図られ、子どもの発達に合わせた論理的思考力の育成を目指した学習環境とカリキュラムが開発されました。思考力育成は教育の根幹に係る究極の重要課題です。テーマに始めて接した3年前、その難題に正面から果敢に挑む附属学校のチャレンジャブ

ルな試みに正直なところ驚きました。この間、教育システム研究開発センター長としてその活動に触れてきましたが、今ではこの驚きが誇りに変わり、奈良女子大附属学校だから設定できたテーマで、対外的にも期待されていた必然性のある教育研究だと思えるようになりました。附属の実力を見せていただいたためです。ですが、教育は短期的な評価が難しく、長期的で多面的な評価が必要と考えられます。今後も地道にエビデンスを積み上げていくことが大切かと思えます。

これを機会に私も生来のチャレンジ精神を発揮し、微力ながら附属小学校に少しでもお役に立つよう努めていこうと決意を新たにしております。これからも、皆様方の温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



SSH SCoPE (Science Communication Program for Every student)

4カ国生徒のサイエンスキャンプ



附属中等教育学校は、2010年度～2014年度の5年間、文部科学省から第II期のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の研究指定を受け、理数教育の研究を進めています。さらに、2010年度に引き続きコアSSHにも指定されて、国際連携のプログラム開発を行いました。

その際を中心となったプログラムが、2011年8月に本校において実施したサイエンスキャンプ

SCoPE(Science Communication Program for Every student)

で、参加者は下の表のとおりです。

SCoPE		生徒		教員	
		男子	女子	男性	女性
日本	本校	11	26	多数	
	奈良教育大学附属	4	0		
	西大和学園	5	0		
	奈良高校	1	1		
台湾	4	6	3		
	韓国	6	6	4	1
	シンガポール	2	8	2	1

英語でコミュニケーション



SCoPEは、8月17日～23日に実施され、最初はアイスブレイキングとして奈良ツアー等を行いました。

19日～21日は5つのワークショップ、数学・物理・化学・生物・情報に分かれて、英語でコミュニケーションをとりながら、科学を楽しみました。

- 数学：The Invitation to “Game Theory”-How to win the game -
- 物理：Explore the World of Measurement! -Approach to the energy issue-
- 化学：Our Drinking Water
- 生物：Ecosystem in Nara Park
- 情報：Mission Mars! Let’s build a robot Mars probe!

実験・フィールドワーク・議論等を行いながら、生徒たちは協働してテーマを追究していました。

ポスターセッションで成果を発信



22日は、ワークショップでの協働学習の成果をポスターにして発表しました。多目的ホールには、各班の力作のポスターが並べられ、各国の生徒たちの発表を待っています。

本学の野口誠之学長の挨拶から始まったポスターセッションは、最初の時間は、生徒同士の説明・質疑応答とし、次に運営指導委員をはじめとする先生方との質疑応答としました。生徒たちは、SCoPEで学び、研究した内容を発表し、質問に回答することで、より理解を深めることができました。

また、ポスター作りや発表を通じて、生徒間のコミュニケーションが、どんどん質の高いものになっていくことがわかり、非常に有意義なサイエンスキャンプとなりました。

附属幼稚園・小学校 幼小一貫教育スタート

幼小一貫教育を進めている本学附属幼稚園・小学校は、4月10日に初めての入園・入学式を行い、幼小一貫教育を本格的にスタートしました。

附属幼稚園と附属小学校は、今年度の4月から、幼小一貫教育を行う学校として本格的にスタートしました。その証ともなるよう幼稚園の入園式と小学校の入学式をいっしょに行うことができました。



もともと、附属幼稚園と附属小学校の教育には、子どもを育てる理念や精神、そして、育て方や子どもの見方に共通したものがありませんでした。例えば、子どもの生活を全面に据え、さまざまな生活体験からの気づきを大事にしているところです。また、附属幼稚園では、身の回りのことに興味をもって関わる能動性を大事にし、「自由選択活動」で、好きな遊びに没頭できるような環境を整えてきました。いっしょに何かを作ったり遊んだりしながら協力する体験、トラブルを乗り越える工夫や、自分の気持ちを抑え、なかよく過ごすためのルール作りなど、「自由選択活動」で培われる子どもの主体性と、附属小学校の「学習法」で培われる主体性は繋がっています。

幼小一貫教育は、このような連続性の中で、幼稚園児3歳ないしは4歳の子どもたちが、小学校を卒業するまでの8、9年間の成長や発達を見通して、三つの課程に分けて教育を行っていかようとするものです。

その三つの課程は、次のように考えています。

・初等教育前期課程【3歳・4歳】

豊かな環境の中での遊びを通して、個性を伸ばし、多様な体験活動や表現活動を通して、主体性や感性を育てる。

・初等教育中期課程【5・6・7歳】

遊びや生活の中に学びを見つけ、子ども同士、子どもと教師が「協同した学び」をつくることができるようにする。

・初等教育後期課程【8・9・10・11歳】

「しごと・けいこ・なかよし」の学習を通して、「学習法」を身につけ、自ら伸びて行く力を育てる。

特に、5歳・6歳・7歳の3つの学年の異年齢交流活動「なかよしひろば」を通して育つ学び合いが特徴的です。

また、中期課程以外の異学年の交流学習を、「なかよし」の学習や行事を中心として年間に数多く行っています。そこでは、「学びや文化の伝承」が進み、学校としての良き伝統が、子どもから子どもへ受け継がれている姿を見ることができます。





新任副校長として奮闘する日々
附属中等副校長 吉田隆

附属中等教育学校副校長になりました、吉田隆です。4月から2ヶ月ばかりが過ぎましたが、今までとはまったく違う仕事内容に戸惑う日々が続いています。これまでは、生徒一人ひとりの顔を思い浮かべながら、さて次はどんな授業を組み立てようかと考えてきました。それが今は、生徒や先生、保護者、学校関係者の皆さんのことを想像しながら、さてどうしようと考えていることが多くなりました。

生徒や卒業生が尋ねてきては、「先生えらくなりましたね」と話しかけてくれます。当たり前ですが、急にえらくなるはずもなく、自分自身は何も変わりありません。ただ、周りの見方が変化していくことに気持ち悪さを感じています。変わったことと言えば、中身の無い分を外観で補うために、ジーパンからスーツに変わったくらいでしょうか。

今後、私が気をつけたいと思っているのは、自ら壁を作らないようにしようということです。現実をよりよい方向に変えるには、人と人との関係が大切です。聞きたくないことや見たくないことに耳や目を閉ざすことなく、自分にできることは何かを考えていこうと思っています。多くの方々の協力をお願い致します。



可愛い園児に囲まれる日々
附属幼稚園養護教諭 林雅子

4月より仕事着を白衣からエプロンに変え勤務しています。これまで小学生以前の子どもは接点も知識も無く、謎のまま一生終わると思っていましたが、縁あって幼稚園に2年間お世話になることになりました。

幼稚園に来て最初の印象は「全てが小さい」という事でした。子猫達の世界に紛れ込んだグリズリーの気分を味わっています。

幼稚園では時に保健の先生、という感じです。よじ登ったり、相撲を取ったり、パンチやキックで戦うのに適当なサイズらしく肉弾戦の毎日です。一方で、年長さんは上のような可愛い似顔絵を描いてくれます。

また、どの様な言葉に変換すれば伝わるのか試行錯誤を繰り返しては反省の日々です。目下の悩みは身長計測で、「頭部を耳眼水平位にし身長計の尺柱に背中・臀部・両踵を付け肩の力を抜き直立姿勢をとる」をどう言えば良いのか、です。

長いようで短いこれからの2年間、本園の教育目的やカリキュラムを理解しつつ、幼稚園における養護教諭としての職責を果していきたいと考えております。



青春の子どもたちが眩しい日々
附属中等養護教諭 福西まゆみ

幼稚園から中等教育学校という全く違う校種へ異動になり、様々な出会いや驚きがあり新鮮な毎日を送っています。

幼稚園とは子どもの大きさも校舎の広さも違いますが、もうひとつ戸惑ったのが「言葉」でした。誰かと話をしようとする時、私の口から思わず出てくるのは幼児向けの言葉ばかりで、中高生と話をするためには頭の中で一度『変換』しなければならず初めはもどかしい思いをしていましたが、親しみやすく素直に話をしてくれる子どもたちのおかげで、いつの間にか自然に楽しめるようになりました。上の写真は、3年生(中学3年生)と6年生(高校3年生)が一緒に写ってくれたものですが、このように仲良く過ごしています。

幼児期とは全く異なる、思春期の中学生から高校生までと一緒に過ごせることは、とても貴重な経験だと思います。この経験を幼児教育にも活かせるよう、毎日を大切に過ごしたいと思います。